

令和 6 年度 学校評価シート

学校名： 海南高等学校 美里分校 校長名： 川久保 尚志

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

- 健全な社会人として生徒が成長し、海南・海草地方の豊かな自然や文化・人々の暮らしなど積極的に地域と触れ合い、地域に信頼され、愛される学校を目指す。
- 他者の考えや立場を尊重し、課題解決のために他者と協力・協働する力を身に付け、変化の激しい環境をしなやかに強く生き抜く生徒を育成する。

学校評価の公表方法

- ・学校ホームページでの公開
- ・学校運営協議会での公表

現状・進捗度	A	十分に達成している。	(80%以上)
	B	概ね達成している。	(60%以上)
	C	あまり十分でない。	(40%以上)
	D	不十分である。	(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組			評価（3月24日現在）			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗状況	今後の改善方策	
1	確かな学力を定着させ、それぞれの個性や能力を最大限に伸ばす	B	確かな学力の定着に取り組む。	少人数指導を活かし、ICT 機器の活用や一人一人の学力に応じた個別の学習指導を行う。	B	少人数授業のため、一人一台端末を有効に効果的に活用する場面は限られたが、教科による差はあるが、ICT 機器の積極的な活用が進み、課題を抱える生徒一人一人に対し、丁寧な指導を学校全体で取り組んだ。今後も、低学力等学習活動に消極的な生徒への対応について研究を深めてゆきたい。	様々な課題を抱えた本校在籍生徒に対して、個に応じた学習支援が必要である。生徒一人一人の理解を深めるとともに、学力向上に向け、組織的に取り組む。中学までの既習事項の確認及び基礎基本の定着等、学習の進捗状況や学習事項の理解度を常に確認し、教職員全体で到達目標の達成に向け、効果的な指導を目指す。
			個別補習を実施する。	学習事項の理解度を把握し、個々に課題を設定するなど、特性に応じた学習支援を行う。	B	夏期・冬期の長期休業中及び必要に応じて、対面やオンラインによる補習を実施した。通学バスの都合上放課後学習が実施できないため、補習携形態の工夫が必要と考えている。	
			学習意欲の向上を図る。	工夫された教育課程の編成、教職員間における情報共有等を推進し、学習に対する意欲・関心を高める。	B	基礎基本の学力の定着を目的に、学び直しを取り入れた科目、チーム・ティーチングによる授業など教育課程等の工夫を行い、教職員間の情報の共有や連携を進めることができた。生徒の学習に対する意欲・関心を高めるため、今後も組織的に学校全体で取り組みたい。	
2	安心して学校生活を送れるよう、一人一人の課題に応じた支援を行う	B	支援委員会活動を充実させる。	SC・SSW の活用や外部関係機関との連携を推進する。	B	支援委員会を中心に SC・SSW・学校指導支援員を含め、生徒対応について組織的な対応を行った。また自治体教育相談窓口担当者と情報共有を推し進め、課題を抱える生徒の共通理解を促進することができた。	生徒一人一人の課題に対して、全職員で対応する組織的な体制を整えることができた。今後も現状の取組を継続しながら、「つなぎ愛シート・個別の指導計画」の活用、SC・SSW・学習指導支援員・自治体窓口等、関係機関との連携を深め、実績を積み重ねていく。今後も個々の生徒が抱える課題の早期発見・早期対応を適切に行えるよう取り組む。
			全職員による生徒情報の共有を丁寧に行う。	月1回、情報交換会を実施する。つなぎ愛シート等を活用する。	B	今年度、支援委員会・情報交換会を年間6回開催し、情報を共有することができた。つなぎ愛シートの活用を進めることができたが、今後個別の指導計画の活用で課題が残る。	
			特別支援教育に係る教職員の専門性向上に取り組む。	年1回以上、現職教育を実施する。関係職員の研修会への参加を促進する。	B	特別支援に係る現職教育は実施できなかった。就労支援に係る研修等に関係教職員が参加し、研修内容の伝達を行い、教職員の専門性を高める取組を行った。	
3	健全な社会人としての成長を目指し、地域をフィールドにした体験的な活動を展開する	B	ライフ・スタディーズ（総合的な探究の時間）における地域活動を充実させる。	地域での体験活動を年間のべ20回以上設定し、地域住民との交流を深める。	A	ライフ・スタディーズ（総合的な探究の時間）において、のべ12回計24時間の活動を実施した。今後も地域資源を生かすとともに、地域住民との交流を深める取組を継続する。	紀美野町の文化センター、農村センターの施設・設備等の利用や、みさと天文台での現地学習、保健福祉課と連携した地域サロンでの活動等、紀美野町との連携は多岐にわたる。この他、地域清掃や紀美野町文化祭、地域交流ゲートゴルフ大会、太鼓部による地域活動等に取り組み、地域住民との交流を図っている。今後も、地域に根ざした教育活動を展開するため、ライフ・スタディーズの内容の充実を図る。
			公民社会(学校設定科目)における地域探究活動を確立する。	地域を題材にした探究的な学習活動を展開する。	B	地域交流の振り返りや生徒自身による情報収集等を行い、授業において発表するなど、地域を題材にした探究的な学習活動に取り組んだ。	
			課外活動を通じた地域活動への参画を充実させる。	主体的な地域活動への参加を促し、地域の一員としての自覚を育てる。	B	太鼓演奏、棚田の田植え、アマゴ放流など、様々な活動にのべ62名の生徒が参加し、主体的に地域活動に参画し、地域住民との交流を深めた。	

学校関係者評価 (2月17日実施)

- 保護者・学校運営協議会委員による外部アンケート結果（回答20名）において、ほとんどの項目で高い評価を得ており、地域における本校の役割や教育活動に対する理解を得ていると考えられる。
- スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用については学校による積極的な仕掛けが必要であるし、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーに対する支援も大切だと思えます。
- 生徒理解の一方策として、例えば質問箱の設置など検討してもよいかと思えます。
- 学校設備などの環境整備を進めてほしいと思えます。
- オンライン研修の合同実施など、海南校舎や大成校舎との連携を進めてほしいと思えます。
- 授業中の言葉遣いや声かけを含め、教員の言動が生徒に与える影響は大きく、今後も生徒の心に寄り添う対応をお願いします。